

第5回「サステナビリティに関するお取引先調査」の結果

I. 調査概要

お取引先企業にサステナビリティを意識した事業活動を実践していただき、サプライチェーン全体のレベルアップを目指すため、お取引先の取組み状況を定期的に調査しています。第5回サステナビリティ調査では、9項目(全114問)についてお取引先による自己診断調査を実施し、回答いただきました。

＜設問項目＞

I.CSRにかかわるコーポレートガバナンス	(20問)
II.人権	(9問)
III.労働	(23問)
IV.環境	(15問)
V.公正な企業活動	(20問)
VI.品質・安全性	(7問)
VII.情報セキュリティ	(9問)
VIII.サプライチェーン	(7問)
IX.地域社会との共生	(4問)

自己診断調査では、具体的な取組み水準を設定し全114問の設問について、3段階評価で現状に一番近いと思われる水準(1.3.5)を選択いただきました。

水準	状況
5	取組み、対策を実施し、チェックする仕組みがある
3	一部の取組み、対策を実施している
1	何の取組みや対策も実施していない
-	該当しない

II. 調査結果

第5回サステナビリティ調査では、既存のお取引先242社に2024年6月に調査回答を依頼し、2024年10月までにすべてのお取引先より回答をいただきました。(既存お取引先242社で資材・工事、燃料油・包装材料の購買金額の90%を占めています)

調査結果の全体平均水準は3.8で、ある一定レベルの取組みや対策が実施されています。

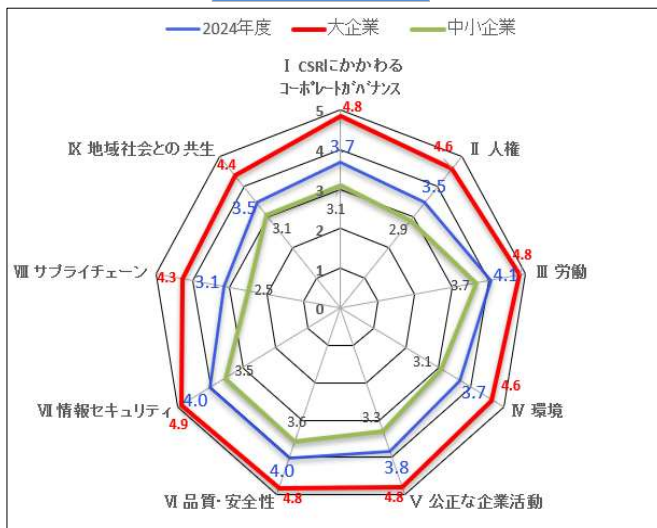
資本金3億円超の大企業の平均水準は4.7、資本金3億円以下の中小企業は3.3と1.4ポイント低い結果となっています。

項目別に見ると「III.労働」に関しては取組み水準が高い一方で、「VIII.サプライチェーン」の点数が相対的に低い結果となりました。

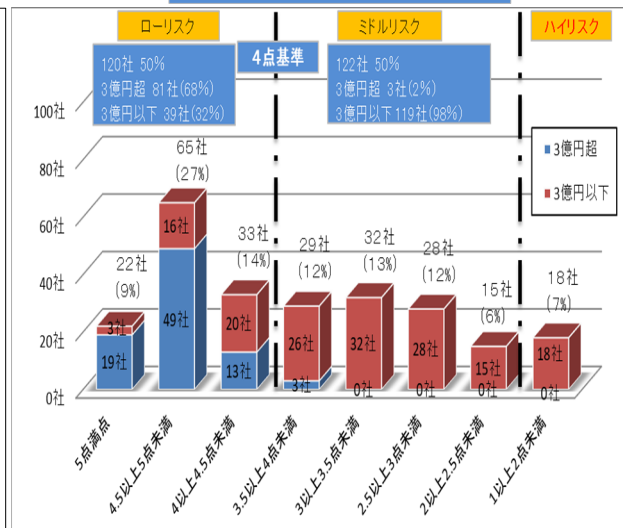
お取引先のサプライチェーンのリスク分析では、平均水準4以上をローリスク、4未満～2以上をミドルリスク、2未満をハイリスクとし評価したところ、ローリスク120社、ミドルリスク104社、ハイリスク18社という結果になりました。

ハイリスクが増えた要因としては、今回より採用した共通SAQの設問数の増加と設問の質の高度化が考えられます。

項目別レーダーチャート



サステナビリティ調査結果(リスク分析)



III. 集計・分析後の取組み

回答を頂いた全242社へ調査結果のフィードバックレポート(全社平均と回答企業の項目別得点率)を送付し、お取引先に自己診断結果の確認を行っていただき、更なるレベルアップをお願いしております。

特に下位10社と特定項目の低いお取引先については面談を実施しました。重大なリスクは検出されませんでしたが、取組水準が低かった設問について水準を選択した根拠をお聞きし、理解しにくかった設問はその内容をご説明し、また改善のための対策例を紹介する等して更なる改善のお願いをしました。

【前回(第4回)調査からの改善状況】

前回(第4回)までの調査の設問は当社独自だったものを、今回第5回より国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)にて作成されたセルフ・アセスメント質問表(SAQ)を採用し調査を実施しています。

前回調査の全体平均は3.8でしたが、今回は3.8と設問が変わったにもかかわらず、前回に引き続きほぼ一定レベルの取組みが実施されています。

前回調査で下位10社となったお取引先については、今回調査で順位が上がっておりフォローアップ活動の効果が得られている事を確認しました。